

群 教 セ	G10 - 01
	令3.278集
	道徳

# 道徳科において、他者の考えを基に再考し 自分の考えを深める児童の育成

—変容が分かるノートの活用と  
考えを伝え合う交流活動を通して—

特別研修員 赤澤 和哉

## I 研究テーマ設定の理由

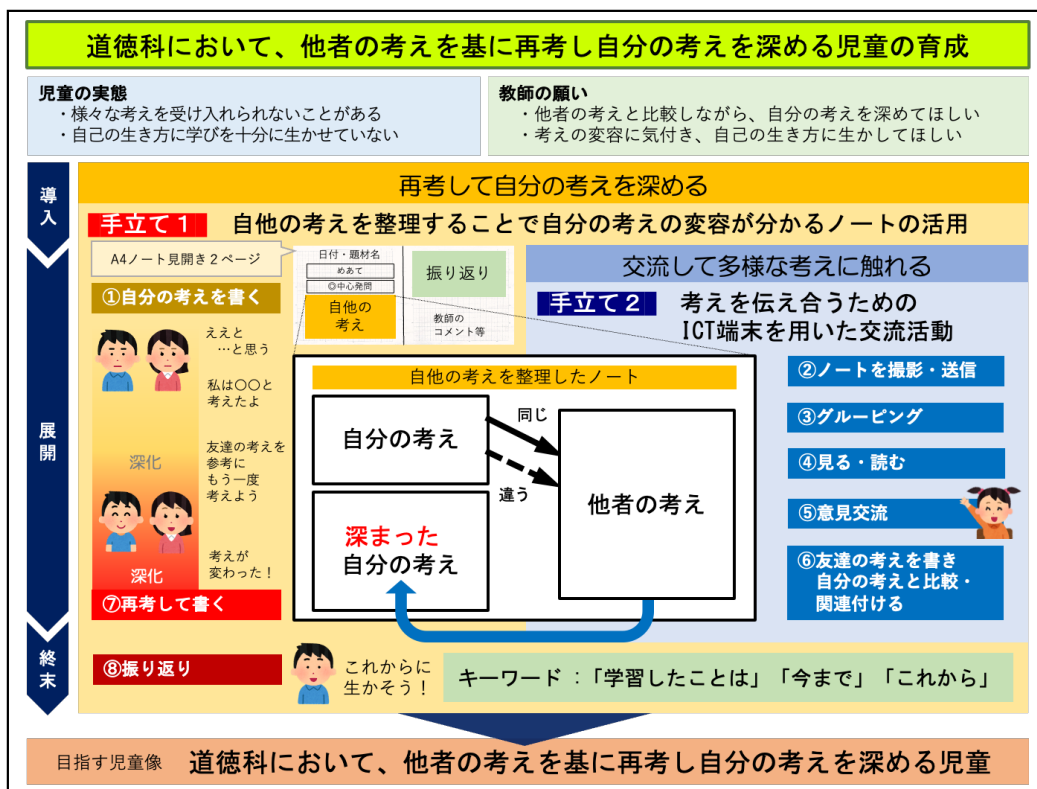
令和3年度群馬県学校教育の指針には、新しい時代に求められる児童生徒の資質・能力の育成に向け、ICTを積極的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の必要性が明記されている。また、豊かな人間性の育成を目指し、互いの考えを認め合い、共に成長する喜びを実感する集団を育てることや、成長意欲が高まり、様々なことに挑戦する児童を育てることも求められている。

研究協力校の道徳科における課題は、他者の様々な考えを受け入れられないことがあったり、道徳的価値に対して深く考え、自己の生き方に学びを十分に生かせなかったりすることだと考える。

そこで、他者の考えを基に再考し自分の考えを深めることが大切であると考えた。そのためには、自他の考えを整理することで自分の考えの変容が分かるノートを活用したり、考えを伝え合うためのICT端末を用いた交流活動を設定したりする必要があると考えた。また、道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る場面では、これまでの自分とこれからの自分について記述することで、自己の生き方についての考えを深めるとともに、授業を通しての変容が分かると考え、本研究のテーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

児童が道徳的な課題について他者の考えを基に再考し自分の考えを深めることができるよう、考えをノートに整理することや、ICT端末を使って考えを伝え合うことが有効だと考え、次の手立てを設定した。

**【手立て1】 自他の考えを整理することで自分の考えの変容が分かるノートの活用**

**【手立て2】 考えを伝え合うための ICT 端末を用いた交流活動**

### 【手立て1について】

ノートに記述することのよさは、簡単に消せるデジタル画面とは異なり、文字を書く際に自分に繰り返し問い返しをして、考えを深く自覚できるということだと考える。また、思いついたときにすぐにメモとして文章や絵・図などを追記したり、自分で選択・整理して書いた多くの情報を確認しながら、新たな考えを練ったりすることも可能である。

授業では、中心発問を問う場面と振り返りの場面でノートに考えを記述する。具体的には、中心発問では、自他の考えを書き分け、それらを比較・関連付ける矢印をノートに書く。また、全体での交流後に再度自分の考えをノートに書く。こうすることで、児童は自分の考えを深め、変容に気付くことができると思う。振り返りの場面では、「学習したことは」「今まで」「これから」のキーワードを使って記述することで、自分のこれまでの生活を振り返り、よりよい生き方への思いや願い、考えを深めていく。このようなことを通して、他者の考えを基に再考し自分の考えを深めることができると考えた。

### 【手立て2について】

多くの考えを伝え合えるよう、ICT端末のよさを生かし、全員の考えを見られるようにする。具体的には、まず、児童はノートに書いた自分の考えをICT端末で撮影し送信する。次に、全体で共有できるように、教師は送信された全員の画像を一つの画面に映し出し、グルーピングする。その後、自分とは異なるグループの考えを中心に、質問したり詳しく説明したりする時間を設ける。このようなことを通して、他者の多様な考えに数多く触れることができると考えた。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- ICT端末を活用した交流を行うことで、全員の考えを共有することができた。また、グルーピングを行ったことで、自分と似た考えや異なる考え、また少数派の考えにも注目でき、多様な考えに気付く様子が見られた。
- 自他の考えを分けてノートに記述し、比較したり矢印でつないで関連付けたりすることで、他者の考えを基に主体的に再考し、自らの考えに生かす様子が見られた。
- 全体で交流した後に、再度自分の考えをノートに書く活動を取り入れたことで、交流前後の自分の考えを比較し、変容を自覚することができた。
- 振り返りの場面で、「学習したことは」「今まで」「これから」をキーワードにしたことで、今までの生活を振り返り、これからの行動に生かそうとする内容を記述することができた。

### 2 課題

- 多様な考えを基に児童同士が積極的に交流する場面を充実させるために、資料を理解する時間や記述する時間をバランスよく設定するとともに、教師がファシリテーターとして児童の相互理解を促していく必要がある。
- 多様な考えに触れられる機会を増やすために、教師がグルーピングをするだけでなく、児童自身が内容、立場、道徳的価値の違いなどの視点でグルーピングできるようにすることも考えられる。

## 実践例

- 1 主題名 互いに高め合いながら 内容項目B-(10)友情、信頼 (第5学年・2学期)  
教材名 「ドッジボール対決」 (出典:「きみがいちばんひかるとき」光村図書)

### 2 本主題について

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

ねらいとする道徳的価値は、友達との関わりの中で、相手に共感したり相手を信頼したりしながら、互いに高め合おうとする心情を育てることである。友達は学校生活において深く関わる存在であり、互いに影響し合いながら成長するためにとっても大切な存在でもある。一方で、人間には、本当はよくないと思っても、友達の考えに同調してしまい、自分の考えを伝えずにやり過ごしてしまう弱さもある。そこで、友達とよりよい関係を築くために、よくないと感じる考えに対して、自分の考えを素直に伝えたり、互いの考えをよく聞き、尊重し合いながら、よりよくなるよう協力したりすることが大切であることに気付かせたい。

#### (2) 児童の実態について

本学年の児童は、仲のよい友達と互いに共感したり信頼したりしながら笑顔で会話する姿が多く見られる。一方で、狭い範囲でのグループを作って、時に他のグループと対立することもある。相手の立場に立って考えたり行動したりすることが不足している場面も少なくない。そこで、学校生活が更になじみやすくなり心の充実が感じられるよう、互いのよさを認め、学び合い、支え合いながらよりよい友達関係を築くことの大切さに気付かせたい。

#### (3) 教材について

主人公の「ぼく」は、5年2組の一員である。ある日、去年まで同じクラスで今でも仲のよい1組の「都」と下校で一緒になった。「都」は2組の団結力がうらやましい、と言う。そこで、「ぼく」は互いのクラスの団結力を高めるために、クラス対抗のドッジボール対決をしようと提案した。対決が決まった後、2組の作戦会議で「対決の日まで1組の人とは話さない」ことが決まった。「ぼく」はこの決定に疑問を抱きつつ、「都」にそのことを伝える、という話である。「ぼく」が自分の組の友達も「都」や1組の友達とも高め合うためには、どうすればよいかを問い、友達同士が互いに信頼して関わるとはどのようなことかを考えさせたい。

### 3 本時及び具体化した手立てについて

教材を通して、道徳的価値について考えたり交流したりする場面において、次に示す手立てを講じた。

#### **自分の考えを書き、ICT 端末で共有する場面【手立て1、2】**

- ・中心発問について、A4ノート見開き2ページの、1ページ目の左半分に自分の考えを書き、ICT 端末で撮影して送信するよう促す。(「6 資料」参照)
- ・教師は送信された全員の画像を一つの画面に映し、グルーピングする。
- ・気になる考えについて、より深く理解するために意見交流する時間を設定する。

#### **考えを比較・関連付ける場面【手立て1】**

- ・グルーピングを参考に、自分の考えと似ている考えや異なる考えを見つけて、自分の考えと分けてノートに書くよう促す。
- ・自他の考えを矢印でつなぎ、比較・関連付けるよう促す。

#### **自分の考えを再考する場面【手立て1】**

- ・比較、関連付けた考えを基に、中心発問について再考しノートに書く時間を設定する。

#### **振り返りの場面【手立て1】**

- ・学習したことを自分事として捉え、振り返られるよう、「学習したことは」「今まで」「これから」というキーワードに沿ってまとめるよう促す。

#### 4 授業の実際

導入では、「友達と意見が合わなくて困ったことはありますか。また、どのようなことで困ったのですか」と問い、友達との関わりを振り返るようにした。児童からは、「クラスでレクをするとき、楽しむことが目的であったが、男女の意見が合わず困った」という意見が出された。どの児童にも同じような経験があり、問題意識が高まったところで、「お互いに高め合う友情とはどういうものか考えよう」というめあてを設定した。

次に、展開前段において、互いのクラスの団結力を高めるために、クラス対抗のドッジボール対決をしようと提案したときの主人公の気持ちと、2組の作戦会議で「対決の日まで1組の人とは話さない」ことが決まったときの主人公の気持ちを問い、主人公の葛藤を想像させ板書に整理した。

#### 手立て1 自他の考えを整理することで自分の考えの変容が分かるノートの活用

中心発問では、「都やそれぞれの組の友達とも高め合うためには、どうすればよいか」を問い、ノートに考えを書くよう指示した。ノートは、自分の考えと他者の考えを分けて記述できるようにした。自分の考えと他者の考えを分けて記述をすることで、それぞれの考えを比較しやすくすることができた。さらに、自他の考えを矢印でつなぐことで関係性を表現できるよう工夫した。児童のノートには、矢印で自他の考えをつなぎ、自分の考えと他者の考えを比較・関連付けしながら、内容について深く考える様子が見られた(図1)。また、記述する自由度が高いノートの利点が生き、中心発問に対する答えだけではなく、思いついたことをメモとして追記する様子も見られた(図1、図2)。

補助発問では、他者の考えに十分に触れてから中心発問に関わる問い返しをして、再考させるようにした。交流前後のノートの記述を比べると、図1のように、交流前は「他のクラスとは話さないなどの変な作戦は立てない」という記述が、交流後では「前向きな気持ちになるために(中略)何かをやるという提案をして(されて)実行する」となり、他者の考えを基に考えが深まったことが分かった。

学習を振り返る場面では、「学習したことは」「今まで」「これから」というキーワードを提示した。キーワードを提示することで、道徳的価値について、改めて振り返ることができたと考える。児童は、学びを生かすよう、自分事として今までの自分とこれからの自分について記述していた。特に、今までの自分に向き合うことで、自分の弱さに気づき、今後どのようにすればよいかを自分事として考えることができていた(図2)。

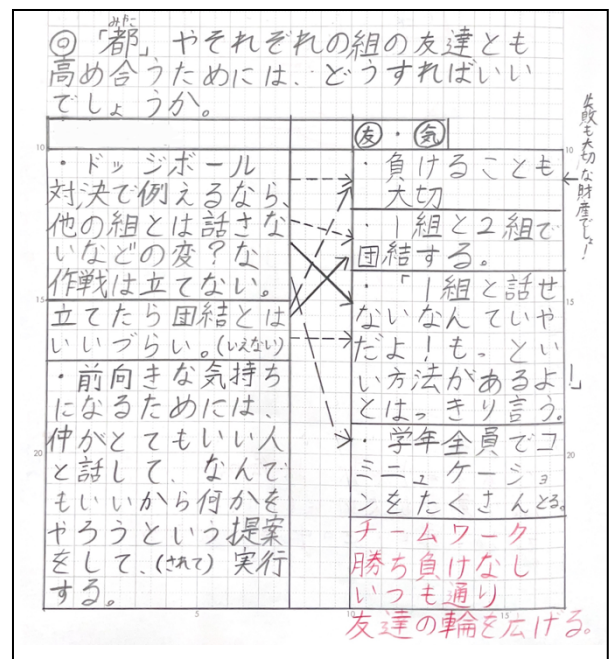


図1 自分の考えと他者の考えの記述(抽出児A)

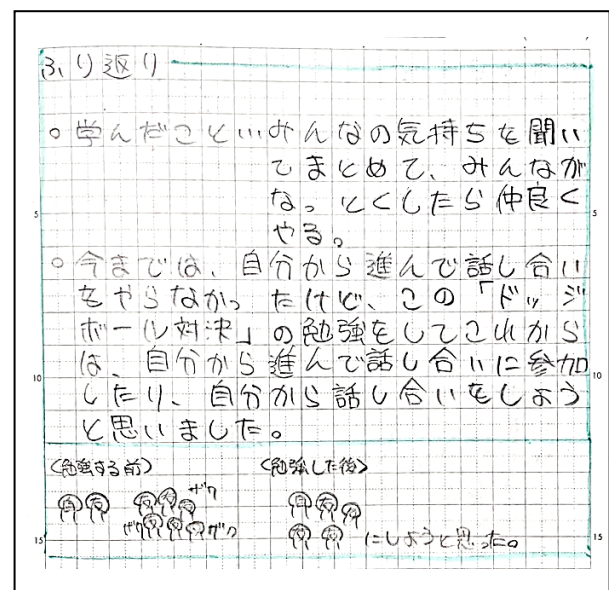


図2 振り返りの記述(抽出児B)

## 手立て2 考えを伝え合うための ICT 端末を用いた交流活動

中心発問で自分の考えをノートに書き、ICT 端末で撮影して送信するよう指示した(図3)。送信するタイミングは、児童により差があるため、送信後は他者の考えを参照したり、気になる考えをノートに書いたりして、児童それぞれが時間を有効に使えるようにした(図4)。送信された児童の考えを、以下の三つの視点で教師がグルーピングを行った(図5)。

- ・赤色：対決の意図を伝える考え
- ・青色：相手を大切にする考え
- ・黄色：その他(方法等)

グルーピングを行うことで、赤色の「対決の意図を伝える考え」が少数派であることが分かり、グルーピングを参考に、少数派の考えや、自分の考えとは異なる視点の考えを読んだりノートに書いたりする様子が見られた。また、クラス全員の考えが映し出されるため、なかなか自分の考えを書けなかった児童が積極的に考えを書くようになったり、これまでは発表せず共有されなかった児童の考えが、クラス全体に共有されたりすることにつながった。

意見交流の場面では、多様な考えに気付けるよう、自分の考えを詳しく伝えたり、他者の考えについて質問をしたりする時間を設定した。他者の考えに対してより深く内容を問う姿や、道徳的価値に迫る考えを聞く姿が見られた。ただし、教師と児童のやり取りになってしまう場面もあったため、児童同士が道徳的価値について考えを深め合えるよう、教師が意図的に働きかける必要があると感じた。

### 5 考察

変容が分かるノートの活用と考えを伝え合う交流活動を通して、他者の考えを基に再考し自分の考えを深める児童の育成を目指した。

手立て1では、自他の考えを整理し、比較・関連付けられるようなノートの書き方を示した。また、自他の考えを分けて矢印でつないで整理するようにしたこと、児童は、意欲的に自他の考えを比べながら、考えをノートに記述することができた。このような活動は、補助発問で道徳的価値について再考をする際に効果的に働き、交流後の考えには、他者の考えを参考にして多面的な考えが増えたり、異なる立場での考えになっていたりする記述が多く見られた。

手立て2では、手立て1と組み合わせ、ICT端末を活用して全員の考えを共有することができた。児童は気になる他者の考えを、グルーピングを手掛かりに自由に読み、多様な考えに触れることができた。児童の様々な考えをつないだり、多様な考えを基に児童同士が積極的に交流するよう促したりする場面を増やし、更なる考えの深まりを目指したい。



図3 ノートの撮影・送信の様子



図4 全員の考えを読み考える様子

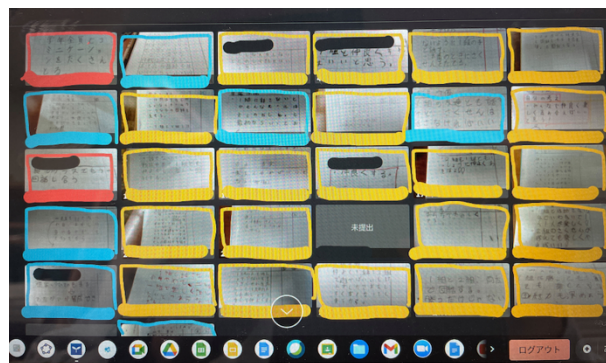


図5 グルーピングの様子

## 6 資料

- ・ノートは、A 4 ノート見開き 2 ページで構成した。
- ・ノートの表紙裏に、次のような記入例を貼り、児童が記入時に手掛かりとして見られるようにした。

### < 記入例 >

月	日	曜日	第	回									
<input type="checkbox"/> (番号)	( 題 名 を 書 こ う 。 )												
<input type="checkbox"/>	( 考 え る こ と を 書 こ う 。 )												
<input type="checkbox"/>	( 今 日 一 番 考 え る 質 問 )												
( 自 分 の 名 前 )										<input checked="" type="checkbox"/> 友	<input checked="" type="checkbox"/> 気		
・	～	が	大	切	だ	.	→	～	の	た	め	に	重
・	～	が	い	い	と	思	う	.	→	要	だ	.	な
							→	～	は	よ	く	な	い
							→	か	も	し	れ	な	い
・	～	は	で	き	な	い	か	も					
し	れ	な	い	.	で	も	や						
る	べ	き	だ	.									
ポイント① 自分の考えをたくさん書こう。友達の考えを見たり聞いたりしながら、質問についてもう一度考えて、書きたそう。								ポイント③ 自分と友達の考えで、関わりのあるものを矢印でつなごう。 同じ考え → ちがう考え →		ポイント② なるほどと思った友達の考えを書こう。			

ふ	り	返	ろ	う									
学	習	し	た	こ	と	は	.	.	.				
今	ま	で	.	.	.	ポイント④ 左の言葉に続けて、今日のふり返りを書いてみよう。							
こ	れ	か	ら	.	.	.							
<input type="checkbox"/> (◎ ○ △)													
<input checked="" type="checkbox"/> 目	<input checked="" type="checkbox"/>	← 自分事として考えられましたか。											
<input checked="" type="checkbox"/> 気	<input type="checkbox"/>	← 友達と交流して、自分とはちがう考えに気付き、深く考えることができましたか。											
<input type="checkbox"/>	先生のコメント												
<input type="checkbox"/>	先生のコメントを読んでめあてについて改めて考えたことを書いてみよう。												